

2020 年度（令和 2 年度）奈良県立病院機構看護専門学校自己点検の結果について

I. 学校評価の目的

学校評価は、奈良県立病院機構看護専門学校が学校活動全般について自己改革を行い、教育の質向上および学校の設置目的を達成するために行う。

学校評価は、教育機関としての機能を包括的に判定する「学校運営評価」と学生及び教員による教育方法と内容の評価である「授業評価」、学生の満足度からなる「学生満足度調査」からなる。

1. 学校運営評価

教職員 21 名を対象に、質の高い魅力ある学校づくりに資することを目的に評価を実施した。（回収率 100%）評価項目は、「I. 学校運営」「II. 教育課程・教育活動」「III. 入学・卒業対策」「IV. 学生生活への支援」「V. 管理運営・財政」「VI. 施設設備」「VII. 教職員の育成」「VIII. 広報」の 8 項目とし、評価基準は 4：非常に当てはまる～1：まったく当てはまらないの 4 段階とした。（図 1）

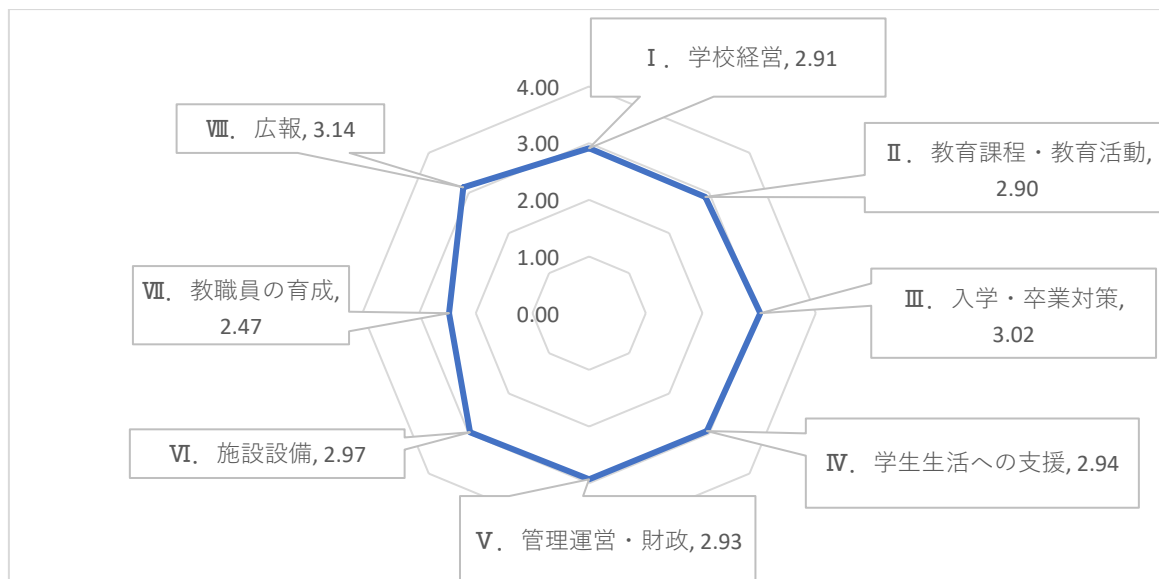


図 1 令和 2 年度学校運営評価

結果は、全体平均が 2.87（前年度 2.91）であった。評価が高い項目としては、「VIII. 広報」3.14、「III. 入学・卒業対策」3.02、「VI.施設設備」2.97であった。「VIII. 広報」では、ホームページを用いて学校評価を公表していることが結果につながっている。また、「III. 入学・卒業対策」では、入学対策として学校パンフレットの改訂、ホームページリニューアル、県内高校への訪問、高校開催の進路相談会および出前授業等への参加、オンラインオープンキャンパスの開催等を実施した。卒業対策では、国家試験対策として国家試験受験者を小グループに分け、チューター制をとり指導にあたった他、学内に国家試験問題を掲示し、学校全体が学習の環境となるよう整備した。また、就職支援として、個別進路相談や面接練習を実施し、卒業生 78 名のうち

76名（96.2%）が県内に就業した。その他2名は、1名が大阪に就職、1名が助産師課程への進学が決定している。

評価の低かった項目としては、「Ⅶ. 教職員の育成」2.47であった。「Ⅶ. 教職員の育成」では、教員ラダーに基づく教員育成プログラムの検討、授業研究の実施、学会・研修会への参加と伝達講習の実施等を行い、次年度に向け、改善していきたい。

2. 授業評価

「授業評価」は、学生による授業評価を行い、評価結果に基づいて授業内容の改善を図る目的で、30時間1単位の授業では、中間評価と最終評価を実施し、15時間1単位の授業では、最終評価を実施した。各教科最終授業後にアンケート評価を実施し、評価は、4：かなりあてはまる～1：まったく当てはまらないの4段階とした。（表1）

評価の高かった科目としては、「医療英会話」3.81、「基礎看護技術Ⅳ」3.78、「基礎看護技術Ⅴ」3.77、「基礎看護技術Ⅱ」3.67、「倫理学」3.67であった。評価の低かった項目としては、「生理学Ⅰ」2.52、「生理学Ⅱ」2.34、「看護過程と看護診断」2.67、「社会保障・社会福祉各論」2.71であった。評価の低かった項目では、特に「④授業の進捗についていけましたか」「⑤教員の話し方は明瞭で聞きやすかったですか」「⑨あなたはこの授業の内容をよく理解できましたか」の項目で評価が低い傾向にあり、講師との調整や授業の進捗に合わせ、教員による理解度の確認とともに個別学習支援等を充実していく必要がある。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの授業が増えたため、オンライン下でうまく伝わらない部分も多くあった。そのため、次年度に向け、オンライン下における効果的な授業方法を検討する必要がある。また、アンケートの回収率にも差があるため、次年度からはオンラインでの回答を求めるアンケートに形式を変更し、回収率向上に努める。

3. 学生満足度調査

「学生満足度」は、よりよい学校づくりの基礎資料とするためアンケート調査を実施した。評価基準は、4：非常に当てはまる～1：まったく当てはまらないの4段階とした。

	令和元年	令和2年
A.学校教育について	2.81	2.95
B.授業について	2.85	2.82
C.カリキュラムについて	2.84	2.90
D.教員について	2.97	2.94
E.学生支援システムや各種サポート	2.56	2.61
F.学生生活全般について	3.05	3.06
G.進路・就職サポート体制	2.90	2.98
H.その他	2.58	2.65
全体平均	2.83	2.86

結果は、全体平均が2.86（前年度2.83）であった。評価が高い項目としては、「F.学生生活全般」3.06、「G.進路・就職サポート体制」2.98、「A.学校教育について」2.95、「D.教員について」2.94であった。評価の低かった項目としては、「E.学生支援システムや各種サポート」2.61、「H.その他」であった。

1) 学校教育について

「学校の理念を知っている」3.13、「法人の理念を知っている」3.09が高得点であった。学生ホール、各教室に法人および学校理念を掲示していることや授業・式典等での理念の周知による効果であると考え。今後も、継続して実施するとともに「奈良看護」についてもその意味を含め、学生に継承していく。

2) 授業について

「専門的な知識が身につく授業が多い」3.26、「視野が広がったり、新しい発見をする授業が多い」3.06、「最新の医療について学べる授業が多い」2.97で高評価を得た。逆に「やる気が出る授業が多い」2.41、「楽しい授業が多い」2.47で低い傾向にあった。次年度に向け、授業の方法、資料の工夫等の改善について教員間での情報共有や研究授業、授業評価方法について検討・実施していく。

3) カリキュラムについて

「演習形式の授業は学びが多い」3.30、「臨地実習は内容が充実している」3.20で高評価を得た。逆に「シラバスは学習を進めるうえで役立つ」2.45、「情報教育（情報処理やパソコン操作）が充実している」2.53と低い傾向であった。開講時にカリキュラムの内容を説明するだけでなく、シラバスを用いて講義の全体像を理解できるような説明を実施する。また、情報科学の授業内容の検討を実施していく必要がある。

4) 教員について

「授業以外でも教員とのコミュニケーションがとりやすい」3.13、「教育や指導に熱意を持っている教員が多い」3.05、「学習に関する相談に応じてくれる教員が多い」3.05で高評価を得た。逆に、「授業アンケートに基づき授業を改善している教員が多い」2.60、「勉学意欲を持たせてくれる教員が多い」2.78が低い傾向にあった。授業アンケートについては、中間評価も含め、すぐに担当教員にフィードバックを行ったり、研究授業等の教員間の対話を実施していく。また、改善に向け、PDCAサイクルを意識し、3ヶ月ごとの学年振り返り評価を実施し、その内容を職員会議で共有することにより、教員の教育力向上に努めていく。

5) 学生支援システムや各種サポートについて

8項目のうち、最も評価が低かった。「サークルなど課外活動に対する支援がある」1.93、「学校祭へのサポート体制が整っている」2.36であった。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの行事が中止となっており、次年度、地域との交流をはじめ、学年を超えた交流ができるような取り組みを検討する。

6) 学生生活全般について

8項目のうち、最も評価が高かった。特に「校内の美化が行き届いている」は、昨年に比べ、評価が良くなっている（昨年度3.17→今年度3.43）ことから、今年度の取り組みである環境調整（下駄箱撤去による避難路確保、階段の手すり設置、感染対策、学習スペースの確保、季

節ごとの飾り付け等)が効果的であったと考える。

7) 進路・就職サポートについて

8項目のうち2番目に高い評価を得た。また、設問3つとも高い評価を得ており、特に「国家試験対策のための指導が充実している」は、昨年に比べ、評価が良くなっている(昨年度2.95→今年度3.09)ことから、今年度、強化した国家試験対策(学生への個別指導のためのチューター制、学内全体で国家試験問題に触れる環境を整備、国家試験対策のための補講等)が効果的であったと考える。

8) その他

「専門学校ではなく大学になってほしい」2.34、「3年制ではなく4年制にしてほしい」2.28で低い評価を得た。今後、4年制の必要性、大学と大学校の違い等、説明を行っていく必要がある。「自分が本校の学生であることに誇りや自信を持っている」では、2.91となっており、今後も学生が自分の学校や仲間を大切に思えるような学校作りを教員一同で取り組んでいきたい。

II. 総評

〔内部委員からの講評〕

看専統合後、質問項目を変えていないため、項目の見直しを検討する。アンケートの取り方、タイミング、中間評価の検討と回収率アップも課題である。

- ・リモート授業について、学生は家だと集中が続かない。対面授業と同じようにはなっていない。ある程度感染対策が分かってきたので、学生を学校に来させている。
- ・医療人としてのマインド形成に力を入れる。医療人としてどう育てるか。医療人たるものは、ということを学生自らに考えさせる。

〔外部評価委員からの総評〕

- ・細かく評価されている。特に国家試験対策は素晴らしい。
- ・自組織では時間割を出す時点で学生総代に確認したり、実習カリキュラム策定に学生に入ってもらっている。学生に入ってもらった方が学生の満足度が高いため、学校評価への学生の参画についても検討してほしい。
- ・リモート授業は優秀な学生とそうでない学生の差が開くことが問題となっている。
- ・医療人としてのマインド形成は学校本来の姿。自身の規律を学生の段階で考えてほしい。見えないところでモラルをどう守るか。学生のモラルを育てたい。